

**筑波大学開学 40+101 周年記念募金
活動報告及び実績報告**

**国立大学法人筑波大学
連携・渉外室**

活動報告

筑波大学基金「開学 40+101 周年記念募金」活動事業を下記のとおり実施しましたので報告します。

1 募金目的

開学 40+101 周年記念事業として学生の海外留学等支援を 5 か年計画で実施し、グローバル人材の育成を推進する。

2 事業経過

事業経過の概況は次のとおり。

平成 25 年 5 月 21 日	第 3 回筑波大学基金運営委員会において、開学 40 周年記念募金の実施が提言された。
平成 25 年 6 月 27 日	平成 25 年度第 12 回運営会議において、「開学 40+101 周年記念募金」事業の実施及び募金活動推進本部の設置が決定した。
平成 25 年 6 月 27 日	第 1 回募金活動推進本部会議において、募金実施計画及び支援計画が策定された。
平成 25 年 11 月 21 日	第 2 回募金活動推進本部会議において、状況報告及び学内関係者への協力依頼があった。
平成 26 年 3 月 21 日	第 3 回募金活動推進本部会議において、状況報告及び学内関係者への協力依頼があった。
平成 26 年 9 月 30 日	募金活動を終了した。
平成 26 年 11 月 30 日	寄附者に対して募金活動事業報告及び記念品を送付した。

3 活動期間

平成 25 年 1 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日

4 募金活動

■学内における活動

教職員に対し、安定的かつ恒常的な募金体制を構築するため、給与控除による寄附の増大を図った。

活 動 内 容	備 考
全教職員へ電子メール依頼	平成 25 年 7 月 24 日送信
全教職員へ学内郵便依頼	平成 25 年 8 月 21 日発送

※上記活動により、平成 24 年度の給与控除参加者 254 人であったが、周年募金期間中の給与控除参加者は 872 人（退職者を含む）になった。

■企業・団体等に対する活動

企業・団体等については、本学の取引先や関係する企業・団体を中心に個別訪問や郵送による寄附依頼を行った。

活 動 内 容		備 考
個別訪問	取引先等 : 281 件	—
	寄附実績 : 173 件	—
	学内紹介 : 36 件	—
郵送依頼	一括発送 : 452 件	平成 26 年 2 月 5 日 発送
	学内紹介 : 77 件	平成 25 年 9 月 10 日 発送

■卒業生・同窓会組織に対する活動

茗溪会をはじめ卒業生に対し、郵送による寄附依頼を行った。

区 分	活 動 内 容	備 考
茗溪会	郵送依頼 : 20,600 件	平成 25 年 10 月下旬 発送
その他	第 16 回ホームカミングデーで依頼 : 350 件	平成 25 年 11 月 3 日 配布
	本学として把握している住所宛 (実家を含む) 郵送依頼 : 11,685 件	平成 25 年 12 月 26 日 発送
	桐医会郵送依頼 : 3,050 件	平成 25 年 12 月 19 日 発送

■在学生家族に対する活動

在校生家族に対し、郵送による寄附依頼を行った。また、附属学校の在学生家族に対しては、附属学校ごとに個別に寄附依頼を行った。

区 分	活 動 内 容	備 考
在学生家族 (大学)	郵送依頼 : 6,529 件	平成 25 年 10 月 22 日 発送
	郵送依頼 : 7,712 件 (紫峰会)	平成 26 年 2 月 27 日 発送
在校生家族 (附属)	附属学校ごとに個別依頼 : 4,650 件	平成 25 年 11 月 21 日 発送

■退職教職員に対する活動

名誉教授をはじめ退職教職員に対し、郵送による寄附依頼を行った。

区 分	活 動 内 容	備 考
名誉教授	郵送依頼 : 527 件	平成 25 年 9 月 12 日 発送
名誉教授 (医学関係)	郵送依頼 : 31 件	平成 25 年 9 月 12 日 発送
旧教職員 (学内データ)	郵送依頼 : 2,271 件	平成 25 年 10 月 22 日 発送
旧教職員 (医学関係)	郵送依頼 : 531 件	平成 25 年 9 月 11 日 発送
旧教職員 (筑峰会)	郵送依頼 : 210 件	平成 25 年 10 月 30 日 発送

■筑波大学基金パンフレットの配布状況

開学 40+101 周年記念募金パンフレットを下記のとおり配布した。

事 項	配 布 日
第 17 回茗溪・筑波グランドフェスティバル	平成 25 年 1 月 26 日
平成 25 年度入学式	平成 25 年 4 月 8 日
筑波デザイン展他	平成 25 年 6 月 4 日～7 月 28 日
日本教育経営学会第 53 回大会	平成 25 年 6 月 7 日～9 日
日本社会教育学会 2013 年度 6 月集会	平成 25 年 6 月 8 日～9 日
アジア情報アクセスサマースクール	平成 25 年 6 月 22 日～24 日
なでしこサッカー教室つくば	平成 25 年 7 月 7 日
ひらめきときめきサイエンス	平成 25 年 8 月
開学記念式典	平成 25 年 10 月 1 日
鹿行震災復興シンポジウム	平成 25 年 10 月 6 日
開学 40+101 周年記念シンポジウム 「社会とともに大学の未来を共創する」	平成 25 年 10 月 11 日
第 4 回筑波みらいの会総会	平成 25 年 10 月 13 日
『知の開拓者（パイオニア）たち』	平成 25 年 10 月 21 日～11 月 22 日
第 16 回ホームカミングデー	平成 25 年 11 月 3 日
県南学習センター広報（古本チラシを含む）	平成 25 年 11 月
第 18 回茗溪・筑波グランドフェスティバル	平成 26 年 1 月 25 日
平成 26 年度入学式	平成 26 年 4 月 7 日
公開講座	通年
大学会館・本部棟の配架用	通年

4 募金概況

募金目標額 150,000 千円に対して募金額 191,371 千円となり、目標を達成した。募金活動の概況は次のとおり。

区 分	目標額 (千円)	募金額 (千円)	目標額との差 (千円)	達成率 (%)	備 考
企業・団体	54,000	63,705	9,705	118.0	
卒業生・修了生	35,000	22,162	△12,838	63.3	
茗溪会	20,000	6,869	△13,131	34.3	
その他	15,000	15,293	293	102.0	
退職教職員	10,000	7,243	△2,757	72.4	
名誉教授	6,500	3,787	△2,713	58.3	
名誉教授以外	3,500	3,456	44	98.7	
教職員	21,000	18,068	△2,932	86.0	
教育職員	18,000	13,344	△4,656	74.1	
事務系職員	3,000	4,724	1,724	157.5	
在学生家族	25,000	12,825	△12,175	51.3	
在学生家族	—	10,787	—	—	
在校生家族 (附属学校)	—	2,038	—	—	
その他(篤志家)	5,000	5,298	298	106.0	
古本による募金	—	1,397	—	—	
現金寄附 計	150,000	130,698	△19,302	87.1	
財物寄附	—	60,673	—	—	12 件評価額
合 計	150,000	191,371	41,371	127.6	

(注) 達成率 = (募金額 / 目標額) × 100%

■企業・団体

- ・目標額 54,000 千円に対して募金額 63,705 千円となり、目標を達成した。
- ・最高額は 6,543 千円であった。
- ・募金活動は、30 周年記念募金活動を参考に、郵送依頼のほか、過去 3 か年の取引高、各系・附属病院等からの紹介による個別訪問を実施した。
- ・新たな大口寄附者を開拓した一方で、30 周年記念募金協力者から協力を得られなかった場合又は寄附額が少額となる場合があった。この傾向は企業規模が大きいほど顕著であった。理由としては、①1 年間という準備・周知期間の短さ、②40 周年のタイミングが記念事業として認知されがたいこと、③寄附後のフォローの有無の問題があげられる。
- ・今後は、寄附団体に対して定期的な大学情報を発信し、継続的な関係を構築する必要がある。

■卒業生・修了生

- ・目標額 35,000 千円に対して募金額 22,162 千円となり，63.3%の達成率であった。
- ・最高額は 3,500 千円であった。
- ・今回は，30 周年記念募金時と同様の募金計画を作成したが，同窓会団体からの前回規模の大型寄附がなく，郵送による個別依頼が主体となった。
- ・今後は，校友会の実質的な組織化を図る等，卒業生・修了生を重要なステークホルダーとして位置付け，より緊密な関係を構築する必要がある。

■退職教職員

- ・目標額 10,000 千円に対して募金額 7,243 千円となり，達成率 72.4%であった。
- ・最高額は 1,000 千円であった。
- ・一般の退職教職員分は目標をほぼ達成したが，名誉教授の会の団体としての積極的な協力が得られなかった。
- ・今後については，名誉教授の会との関係について，さらに検討する必要がある。

■教職員

- ・目標額 21,000 千円に対して募金額 18,068 千円となり，達成率 86.0%であった。
- ・最高額は 1,036 千円であった。
- ・目標参加率 50%は達成できなかった。ただし，事務系職員（附属病院看護部等を除く）は 36.5%となり，全国的な大学基金の標準参加率 30%には到達し，目標額も達成した。一方で，教育職員の参加率は 22.6%であった。特に附属学校を除くと 17.7%となり，募金額・参加率とも低調であった。このことは，今後の募金活動において大きな課題であり，抜本的な意識改革が求められる。

■在学生家族

- ・目標額 25,000 千円に対して募金額 12,825 千円となり，達成率 51.3%であった。
- ・全体としては，在学生家族からの協力が得られなかった。
- ・要因としては，後援会からの一括寄附がなく，郵送による個別依頼が主体となったことがあげられる。
- ・今後については，現在，検討中の校友会内における後援会組織の位置付けが重要な課題としてあげられる。

■その他

- ・目標額 5,000 千円に対して募金額 5,298 千円となり，目標を達成した。
- ・篤志家からの多くの寄附は，学外からの本学事業に対する理解と期待がうかがえる。
- ・古本による募金は順調な伸びをみせており，今後も継続して積極的に展開する必要がある。
- ・財物寄附は，附属学校に対するものが多かった。

5 基金からの支援状況

学群学生の短期留学、附属学校の国際交流事業及び海外キャンパスの拡充・整備を支援する。

(1) 学群学生の短期海外留学支援

- ・海外短期留学を希望する者のうち、語学力が一定水準以上であり、学業成績が極めて優秀で、かつ経済的支援の必要な者に対して、留学経費全額相当分（1人上限400千円）を支援する。
- ・支援対象は毎年40人程度とする。
- ・支援期間は5年間とする。
- ・対象者の選考は関係組織が行い、学生の将来性に重点を置く。

(2) 附属学校の国際交流事業支援

- ・附属学校の国際交流事業を支援する。
- ・支援期間は5年間とする。
- ・支援対象は附属学校教育局が選定する。

(3) 海外キャンパスの整備・拡充

- ・海外キャンパス（海外教育拠点）の整備・拡充を支援する。
- ・支援内容及び実施時期は、関係部局と協議の上、決定する。

■平成26年度（5か年の初年度）の支援状況

事 項	支 援 額（単位：円）
(1) 学群学生の短期海外留学支援	※3,600,000
(2) 附属学校の国際交流事業支援	4,000,000
合 計	7,600,000

※年度を跨いで留学を行っている学生には平成26年度に300千円、平成27年度に100千円の支援を行う。平成26年度の実際の支援額は2,700千円である。

(1) 学群学生の短期海外留学支援

平成26年度は、次の9名の学生に対し、支援を行った。出願した9名全員が資格及び条件を満たしており、全員採択された。

	所属	氏名	年次	派遣先	留学開始日	留学終了日
1	人文・文化学群 人文学類	山口 野の子	3	カレル大学 (チェコ)	2014/9/15	2015/6/30
2	生命環境学群 生物資源学類	中島 明香	3	ユタ州立大学 (アメリカ合衆国)	2015/1/7	2015/4/24
3	社会・国際学群 国際総合学類	水野 淳美	3	ベルリン自由大学 (ドイツ)	2014/10/1	2015/9/30
4	社会・国際学群 国際総合学類	桑原 未来	3	ウエストミンスター大学 (イギリス)	2014/9/8	2015/6/30
5	社会・国際学群 国際総合学類	大宝 菜都美	3	オーストラリア国立大学 (オーストラリア)	2015/2/16	2015/10/30

6	社会・国際学群 国際総合学類	木村 綾乃	3	ハワイ大学 (アメリカ合衆国)	2015/1/12	2015/12/20
7	社会・国際学群 国際総合学類	佐原 祐希	3	マラ工科大学 (マレーシア)	2015/3/2	2015/7/12
8	社会・国際学群 国際総合学類	軽部 純玲	3	国立台湾大学 (台湾)	2015/2/24	2015/6/30
9	情報学群 情報科学類	横田 健太	1	フィリピン大学 (フィリピン)	2015/1/15	2015/5/29

(2) 附属学校の国際交流事業支援

平成 26 年度は、次の事業への支援を行った。

学 校 名	事 業 名	実績額
附属小学校	国際教育拠点事業 第 6 回・日韓授業技術交流会 教職員が参加。(10 月 9～11 日) 晋州昌原小学校, 光州松源小学校, ソウル 理科, 社会, 図工, 道徳の授業を現地で行った。	500,000 外国旅費
	小学 4,5 年生を対象にした, 国際理解教育, 異文化交流の体験活動 児童, 教職員, 保護者が参加。(3 月 23～30 日) カリフォルニア大学バークレー校, Clarendon School, ACORN Woodland Elementary School, Chinese Immersion School at De Avila にて交流を行った。	1,200,000 外国旅費
附属駒場中・ 高等学校	アジア諸地域の生徒・教員との国際的文化交流と研究交流の促進 生徒, 教職員が参加。(3 月 24～28 日) 韓国, 釜山国際高校への生徒派遣。	1,459,475 外国旅費
附属久里浜 特別支援学校	中華人民共和国における自閉症教育支援 教職員が参加。 ・蘇州工業園區仁愛学校との姉妹校締結と日中自閉症児教育シンポジウムへの参加 (9 月 28, 29 日) ・達敏学校幼稚部開設に伴う自閉症教育支援 (11 月 1～4 日)	800,000 外国旅費

(3) 海外キャンパスの整備・拡充

関係部局との協議は今後実施する。支援内容, 支援額及び実施時期については現時点では未定である。平成 26 年度は寄附金からの支出を行っていない。

6 寄附特典

一定額以上の寄附を行った寄附者に対して、通常の特典以外に記念募金として次の特典を加えた。また、寄附者全員に対して、寄附に関する謝辞及び事業報告を送付した。

寄附者区分	特典内容
1,000千円以上の寄附者	クリスタル楯贈呈
500千円以上の法人寄附者	栽培米（5～30kg）贈呈
100千円以上の個人寄附者	栽培米（5～20kg）贈呈
30千円以上の教職員寄附者	オリジナルブックカバー贈呈
10千円以上の寄附者（学外）	オリジナルブックカバー贈呈
年間10千円以上の教職員給与控除寄附者	個人名入りカレンダー贈呈

高額寄附者（貢献会員以上）に対して、農林技術センターの協力により同センター栽培米を次のとおり贈呈した。

寄附者区分		栽培米重量	件数
個人寄附額	1,000千円以上	20kg	8件
	500～999千円	10kg	8件
	100～499千円	5kg	125件
法人寄附額	5,000千円以上	30kg	3件
	3,000～4,999千円	20kg	5件
	1,000～2,999千円	10kg	11件
	500～999千円	5kg	19件

7 事業総括

開学40+101周年記念募金活動としては、学内外の理解、協力を得て目標額を達成し、募金目的であるグローバル人材の育成支援を当初計画に基づき開始することができました。

今後については、特に開学50周年記念募金を見据えた新たなステークホルダーの創出を積極的に展開していくとともに、学内者の意識改革と直接間接のさらなる協力を推進していく必要がございます。